

NHK ドラマ「坂の上の雲」制作秘話の講演会

原田義則（3組）

3月23日(日)に関東同窓会会員交流イベント：NHK ドラマ「坂の上の雲」制作秘話の講演会（演者：元 NHK エグゼクティブ・プロデューサーで本ドラマの統括制作責任者だった管康弘氏）に上原昇君(2組)、丸山暢久君(4組)と共に参加しました(3月25日付の上原君のリポートと3月26日付の丸山君のリポートも併せてお読み下さい)。

私は毎回幾つかのシーンでは感動して涙ぐんで仕舞うほど好きなドラマです。今年1月から3月まで再放送された「坂の上の雲」も観ていますので予習充分で、聞きたい質問もしっかり準備して講演会に臨みました。

以下、講演で話されたエピソードと私が氏と直接会話して得た情報のうち、上原君、丸山君のリポートとなるべく重ならないようにした事柄を列举します。

- ・管康弘氏の奥様はNHK「ためしてガッテン」や「鶴瓶の家族に乾杯」の司会で有名な小野文恵アナウンサー。
- ・NHKは司馬遼太郎の作品を原作とする大河ドラマを歴代最多の6作品（『竜馬がゆく』『国盗り物語』『花神』『翔ぶが如く』『徳川慶喜』『功名が辻』）が放送している。その他、『空海の風景』、『シルクロード（絲綢之路）』のなどでの共作もあり、他の映像メディアよりも貢献度が大きかったが、『坂の上の雲』は最後まで映像化を認めなかった。
- ・司馬夫人（福田みどりさん）に対して2001年に「オールNHKでドラマ化する」と宣言し、テーマ音楽の他、（普段は対応してくれない）劇中挿入曲の演奏でもNHK交響楽団の全面的協力を得る事が出来た。
- ・氏はプロデューサー或いは制作統括として最初から最後までこのドラマに関与した。
- ・原作者が危惧し、映像化を認めなかった理由の一つであった「明治時代の街並みや風俗、19世紀末のヨーロッパの街並みや風俗、戦闘シーン・波の表現などを「チャチイ映像」でしか表現できないと言う危惧」を克服するリアルな映像とするために、2000年代初頭には無かった最新のVFX(CG)技術を開発して「シン・ゴジラ」（2017年に日本アカデミー賞で最優秀作品賞）で漸く追いつかれるレベルの高品質画像を実現した。この技術は売り物になるレベルの技術だったが「NHKなので」その技術はNHK以外に外販できなかった。
- ・サラ・ブライトマンの歌唱で有名な久石譲作曲のテーマ曲(Stand alone)には日本語歌詞があり、歌って貰ったが違和感があり、使えなかった。
- ・「まことに小さな国が、開化期を迎えようとしている」から始まるナレーション担当の渡辺謙は一回の録音では済まらずに（2009-2011年放送の90分版の）13回分を個別に録音したが、今回の再放送を見ていて、「渡辺謙はこのドラマで原作者司馬遼太郎を演

じていたのではないかと感じた（本人に確認しては無いが）」。

- ・重要な役で出演している菅野美穂、松たか子、石原さとみなどの若手女優陣に対して（今ならセクハラ・パワハラと言われそうな）「3年間は妊娠しないでくれ」と言っていた。
- ・正岡子規役の香川照之の役への没入姿勢は凄まじく、プロデューサーとしては減量を要請しなかったものの、死ぬ間際のシーンのために自ら18Kg減量し、その横顔は正にあの有名な写真のようで、ゾッとした。また、死直前に妹律（菅野美穂）に紙を持たせて寝たまま書いた絶筆三句の筆跡は本物そっくりだったとの事。子規は左利きなので香川照之は本物を見て何度も利き手でない方で練習した筈だとの事。役者魂を感じさせるエピソードである。
- ・主人公の秋山真之（本木雅弘）が初めて上京するシーンで兄好古（阿部寛）が下宿する旧旗本の佐久間邸を訪れるシーンは見ている者にとっては一連のシーンにしか見えな
いと思うが、実は時間も場所も異なる3カ所で撮影したシーンを繋ぎ合わせたもの。
- ・司馬夫人に放送終了後「ありがとう」と言って貰えて、達成感を感じた。

錚々たる役者やナレーターを起用し、国内外数十か所での撮影、最新VFXの開発など、膨大な時間と労力が掛かっていることが良く分かるので、「総制作費は？」と聞いた所「NHKの性質上、答えられない」との唯一の回答拒否。「時間単価にすれば紅白歌合戦程は高くない」とは言っていたが、相当高額であることは間違いなさそう。

秋山真之が初めて上京するシーンで兄好古が下宿する旧旗本の佐久間邸を訪れるシーンや、VFXをふんだんに活用した海戦シーンなど映像表現が素晴らしく全てのシーンで違和感なく物語に没入できる環境設定がなされていて素晴らしいものだと思います。

秋山兄弟、正岡子規と彼らを取り巻く人達をビークルに「日本が近代国家として如何に成長したのか」を訴えるこの司馬遼太郎の計約20時間に及ぶドラマは司馬が恐れていた「戦争に至る過程やその後の影響については深く描かれておらず、戦争美化と受け取られる可能性もある」言った課題は概ね克服^{かん}していて、「努力すれば未来は切り開ける」というメッセージを送り続けていると思います。管康弘氏とこの講演会の企画を実現してくれた

関東同窓会の幹部に感謝します。



後ろ左：秋山好古（阿部寛）
後ろ右：正岡子規（香川照之）
秋山真之（本木雅弘）
NHK 公開の画像から

2025年3月26日記

以上